

令和7年度 エルモ翠町学区 事業報告書

1 令和7年度の目標に対する事業実施の成果

住民のつながりや新たな出会いのきっかけとなる機会を充実できた。 例：小学校との連携による農園活動、県立広島大学、小学校、中学校の協力による防災訓練もち組の結成、わがまちむかしよもやま会の開催、わがまち防災など
構成・連携団体が抱える課題を共有し、学区全体で取組む活動ができた。 例：翠町音頭の伝承（動画撮影・配信、学生スタッフによるリーフレット作成）、伝統活動の支援（まつり、もち関連行事等）、町民大運動会やとんど祭りなど学区全体の交流機会の運営支援、わがまち農園 など
SNSによる情報発信や広報紙の作成、連携団体等の協力による広報機会づくりができた。 例：インスタグラムを活用した広報の開始、ニューズレターの発行、イベントちらしの作成・配布・掲示、小学校の協力によるアプリを活用した保護者への地域情報の発信、児童への直接配布、町内会、幼稚園の協力によるニューズレター、イベントちらしの配布・掲示 中学校との連携によるロゴマーク制作・決定 など
コミュニティ拠点の機能整備に向けた検討と準備を始めた。令和7年度は、エルモ専用出入口を設置した。 例：拠点の縁がわ設置（エルモ専用出入口）
地域活動の認知度を知り、事業の成果と課題、今後の変化を知る基礎調査の準備ができた。 例：県立広島大学地域創生学部教授との連携による住民アンケート調査・学生による地域団体の聞き取り（取材／いずれも令和8年度実施予定）の準備

2 ひろしまLMO運営助成金を活用した事業

1 事業名	地域活動協働プロジェクト	(6)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年7月1日 ～ 令和8年1月11日	
(2) 実施場所	翠町小学校等	
(3) 参加者数	各約400人	
(4) 主催団体	翠町学区社会福祉協議会 ※とんど祭りの備品整備は、エルモ翠町学区主催で実施	
4 取組内容	住民の交流機会づくりとして、地域の関係団体と協働で、学区全体で取組む事業（町民大運動会、とんど祭り）の運営支援や広報、会場整備に必要な備品を整えた。 ① 町民大運動会 9月28日開催 広報、主催団体への補助金 ② とんど祭り 1月11日開催 広報、運営事務、備品整備	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	住民の交流機会や、地域行事を伝承する機会を継続・充実していくことを目的とし、人・お金・情報発信に協働で取組む。また、会場となる小学校グラウンドを整備する道具等が古く、不足していることが課題であり、道具等を整え、行事の継続につなげる。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	広報により、新たな参加や連携につなげるとともに、費用面の負担軽減、運営事務局業務の分担ができた。また、グラウンド整備のための道具を整えたことで、課題解消の一助となり、今後の地域活動やイベント時の環境整備にも活用できるようになった。	

1 事業名	地域活動サポートプロジェクト	(6)事業中(2)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(13) 地域課題等の把握に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年7月1日 ~ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	学区内(主に集会所、公園、翠町小学校)	
(3) 参加者数	①町内会住民を中心に学区全体を対象 ②学区住民を対象 ③延150人程(13回)児童、地域団体関係者等	
(4) 主催団体	①各町内会 ②エルモ翠町学区 協力: 翠町女性会、翠町西部町内会 ③エルモ翠町学区 協力: 翠町小学校、翠町学区民生委員児童委員協議会	
4 取組内容		
① 伝統的地域行事の継承 祭り等の地域行事について、広報や物品購入の支援を行うことで、各町内会の負担軽減、効率的な運営につなげた(夏祭り、秋祭り、もちつき大会)。		
② 翠町音頭の伝承 小学校の運動会や地域の祭り等で踊られる翠町音頭について、多くの住民、幅広い世代が翠町音頭を知る機会を増やすため、練習用動画の配信やリーフレットの作成を行った。リーフレットの配布は令和8年度より行う。		
③ わがまち農園 小学校で実施している「環境整備の日」の取組と連携し、学年園での野菜づくり(じゃがいも)や花壇整備を行った。児童と交流する機会となり、学校と地域の新たな関係づくりの機会になった。収穫されたじゃがいもは給食で活用し、支援学級(授業)の春じゃがいもづくりの支援、卒業式・入学式前の環境整備(草取り、花の植付け)につながった。		
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的 ① 運営費、役員の高齢化、担い手不足による負担増など課題が生じている伝統的地域行事に対して支援を行い、行事の活性化を図り、新たな担い手の確保につなげる。 ② 指導者の高齢化等により、次世代への継承が課題となっている翠町音頭について、幅広い世代で翠町音頭を知り合う機会をつくる。 ③ 児童の見守り、小学校の環境整備とともに、住民同士の新たな交流の場をつくる。また児童、保護者、教員が地域を知る機会をつくることを目指す。		
(2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。) ① 学区全体での広報活動等により、新たな参加がみられた。また、補助金により、必要な備品整備や交流機会の充実ができ、次年度以降の活動継続につながった。 ② 次世代へ継承が課題となっている翠町音頭について、住民が知るきっかけをつくることができた。次年度以降のリーフレット配布では、小学校では、児童だけでなく、教員や保護者にも翠町音頭とともに地域の思いを伝えることが期待される。 ③ 小学生の環境整備と児童の見守りができた。学校の給食に収穫物を活用し食育にもつながった。野菜づくりが得意な住民の新たな出番にもなった。		

1 事業名	まちの担い手プロジェクト	(6)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(15) (1)～(14)に掲げる活動の新たな担い手の確保に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年7月1日 ～ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	①学区内会館・集会所、公園等 ②翠町会館 ③県立広島大学、翠町小学校、翠町中学校、翠町会館、旭三丁目会館	
(3) 参加者数	①学区全体を対象 ②2回延40名程 ③5回延170人程	
(4) 主催団体	エルモ翠町学区／①連携 各町内会、②共催 翠町東部・西部町内会、③共催 翠町学区自主防災会連合会、第5回広島市主催、翠町中学校協力	
4 取組内容		
① もち組の結成・もち関連活動支援 もち組を発足し、年間を通して、地域で餅つきや餅づくりを楽しむ機会をつくった。もち関連の地域行事を支援し、もちをテーマにした交流機会の充実を図った。 もち組練習日7月11日、10月16日 翠町秋祭り餅つき10月25日 旭三丁目餅つき大会12月14日 翠町学区子どもあそびひろば「春色のおもちをつくろう」3月27日 ② わがまちむかしよもやま会 地域住民から提供された昔の写真や古地図、航空写真等の資料を見ながら、地域の歴史等について語り合う会を開催し、住民同士の交流を図った。 第1回10月29日(水) 第2回11月14日(金) ③ わがまち防災 多様な連携により、地域防災の実態を知り合い学ぶ機会をつくった。 8月24日 プレ企画：夏休みこども行事とのコラボによる防災ゲーム 9月12日 浸水時緊急退避場所見学会(県立広島大学)、非常食体験 10月17日 わがまちの備蓄倉庫を知ろう！(翠町小学校) 11月24日 浸水時緊急退避場所見学会第2弾、避難場所グッズ等体験会、防災食ランチ 12月5日 子ども防災～いざという時、子どもを守る基礎知識～ 1月17日 マンホールトイレ設置体験(翠町中学校)		
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的 ① 新たな担い手を発掘することを目的とする。また、地域行事の餅つきの継続を目的に、お金・人・広報で、餅つき関連行事の支援を行う。 ② 地域の歴史を知り合い、魅力を再発見する機会をつくり、住民同士の交流、地域愛の醸成につなげる。 ③ 地域住民の共有の課題である「防災」を軸に、地域を学び、ともに取組む機会をつくることで、顔が見える関係づくり、新たな担い手の発掘を目指す。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。) ① 地域活動に参加をしていなかった住民から関心があるとの声が寄せられた。次年度以降も継続し、もちをテーマにした新たな仲間づくり、魅力づくりにつながりきっかけとなった。 ② 住民から学区内の昔の写真や資料を提供される動きが生まれた。次年度には、収集された写真や資料のデータベース化に新たな担い手の参加や、小学校と連携により、まちの歴史を多世代で知り合い、交流する機会づくりの可能性も得られた。 ③ 幅広い世代の参加や、県立広島大学、翠町中学校、翠町小学校などと新たな協力が得られた。地域の防災事情を学び合うことで、今後、取組むべき防災課題が得られた。		

1 事業名	まちを伝えるプロジェクト	(6)事業中(4)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(14) (1)~(13)に掲げる活動の地域内外への情報の発信に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年7月1日 ~ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	翠町会館、広報物配布範囲学区内	
(3) 参加者数	—	
(4) 主催団体	エルモ翠町学区	
4 取組内容	以下の取組を通じて、構成団体及び連携団体の活動や、エルモの取組、翠町学区の基礎情報の広報を行った。 ・Instagram 活用・発信 ・公式LINE アカウントの取得・ページづくり→活用は次年度以降 ・ロゴ制作・活用（翠町中学校美術部へ案を依頼。中学3案、地域1案から決定） ・ニュースレター作成・配布（1回：町内会会員や小学校児童への配布、拠点での掲載） ・行事・イベント等のチラシ作成・配布（配信） ・ホームページアカウント取得→内容作成や発信は次年度に延期。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	広報ツールを複数活用し、構成団体及び連携団体の活動やエルモの取組、まちの基礎情報等について、地域住民に広く伝えることを目的とする。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	地域内をはじめ幅広く構成団体及び連携団体の活動やエルモの取組を伝えることで、活動への参加や問合せを得られた。エルモ翠町学区の名前や取組を少しずつでも住民に周知ができている。また、広報ツールを複数活用することで、効果的な広報手段を検討し、今後の広報につなげることができた。	

1 事業名	コミュニティ拠点づくりプロジェクト	(6)事業中(5)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(12) 地域の魅力の向上に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年10月1日 ～ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	翠町会館	
(3) 参加者数	1回7人程×5回、「改修工事 now」見学18人、序幕式20人	
(4) 主催団体	エルモ翠町学区	
4 取組内容	地域活動に参加していない住民も立ち寄りやすい場や、新たな交流、居場所づくりなどの展開を目指し、エルモの活動拠点（コミュニティ拠点）について話し合う場を設けた。今年度は、活動拠点への専用出入口を兼ねた「縁がわ」を設置することを決定し、改修工事を行った。 10月～12月の役員会等 拠点整備の方向性について協議、縁がわ(専用出入口)改修工事決定 1月14日、28日 改修に関する打ち合わせ 2月24日～3月24日 改修工事 3月2日 「改修工事 now」見学タイム（エルモ翠町学区1周年の会にて） 3月26日 「縁がわ」除幕式 ※上記以外に、翠町会館で活動しているグループ、団体等に拠点の整備について伝えながら、意見や感想の声をお聞きした。	
5 目的・効果	(事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。)	
(1) 目的	学区内の集会所施設は、地域拠点として管理維持がされ、様々な団体に活用されているが、地域団体の活動に参加していない住民は訪れる機会がない。新たな担い手の発掘や、地域課題に応じた取組を後押しできる機能の整備を目指し、話し合いの場づくりを行う。	
(2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。）	話し合いを重ね、意見や感想を集めたことで、エルモの活動拠点のあり方や、コミュニティ拠点に求められている機能について方向性が得られた。開かれた拠点づくりの一步として、「縁がわ」（拠点専用出入口）の設置が決定し、改修工事につながった。次年度以降、新たな住民のつながり、団体・企業等の関わりを生み、構成団体及び連携団体との活動の展開が期待できる取組となった。	

1 事業名	まち調査プロジェクト	(6)事業中(6)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(13) 地域課題等の把握に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和7年9月1日 ~ 令和8年3月31日	
(2) 実施場所	翠町会館、学区全体等	
(3) 参加者数	学区内団体関係者等	
(4) 主催団体	エルモ翠町学区	
4 取組内容	学区内の地域活動団体や住民の声を集め、今後の取組検討につなげた。 ・ 翠町小学校（校長）から学校と地域との連携に関する意見収集 ・ 委員、構成団体等からの聞取り →次年度実施事業へ反映 ・ 県立広島大学地域創生学部和田教授に地域調査の相談。 住民アンケート調査準備、学生による地域団体の聞取り（取材）の準備→次年度実施	
5 目的・効果	（事業計画書に記載した目的・効果の内容を踏まえて記入してください。） (1) 目的 地域課題の解決や魅力づくりに向け、地域団体や住民のニーズや課題等を具体的に把握する必要がある。学区内の地域活動団体や住民の声を見える化し、今後の取組みの検討につなげることを目指す。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果があったか。） 構成団体及び連携団体の課題やニーズを収集し、次年度の取組みの検討につなげることができた。 次年度には、県立広島大学地域創生学部の和田教授と連携し、住民アンケート調査の実施や学生スタッフの募集による地域団体取材を行うこととなった。まちの変化が見える化する基礎調査の一つになることが見込まれる。	

3 自主財源で実施した事業

今年度は予定なし